



# ANNUAL REPORT 2023

# ABOUT US

私たちについて

## VISION

生まれ育った環境に関係なく、  
子どもが希望とワクワクを持てる社会

## MISSION

困難を抱える中高生に、  
デジタルを使った伴走支援のインフラをつくる

### 理事長・平井より

2023年度もCLACKを応援いただきありがとうございました。

多くの方に支えていただき、CLACKは無事法人設立5周年を迎えることができました。フルタイムのメンバーも10名を超え、目の前の中高生に向き合うことはもちろん、より多くの中高生に質の高い機会を届けるための仕組みづくりにも取り組めるようになってきました。

生成AIの急速な発展により、この先の労働環境は目まぐるしく変わっていくことが想定されます。しかし、CLACKはこれからも、デジタル・ITという軸足はぶらさず、福祉・教育・就労の垣根を越えて、困難を抱える中高生にとって最適な支援を広げることに尽力していきます。



CLACK 理事長 平井大輝

# ISSUE

解決したい課題

## 「貧困の連鎖」を断ち切りたい。

日本の子どものうち、9人に1人が相対的貧困\*にあるという調査報告があります。

経済的困窮は、自己肯定感が十分に育まれず、不登校やひきこもり等に繋がると言われています。また、親の年収の差は子どもの学歴や将来の雇用形態にも影響を与え、大人になったときの年収にも格差が生まれてしまいます。この状態は「貧困の連鎖」と呼ばれ、社会の関心は高まっていますが、簡単に解消できる問題ではありません。

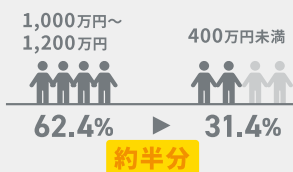
小中学生への食事支援、学習支援、居場所支援などは少しずつ増加傾向にあります。しかし、低年齢層ではなくなる中学生、義務教育を終えた高校生はその支援から漏れてしまうという現状があります。また、将来的に経済的・精神的に自立して生きていくための「自走力」をつける支援も不足しています。

\*相対的貧困は「年間の手取りの中央値の半分以下で暮らしている状態」と定義され、親子2人世帯(ひとり親世帯)の場合、1ヶ月約14万円で暮らしている状態です。

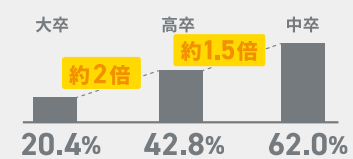
CLACKは、プログラミング学習支援とキャリア教育を通じて、困難な状況にある子どもが未来を切り拓く力を育む機会を提供するとともに、貧困連鎖の解消のための仕組みづくりに取り組み、子どもが希望とワクワクを持てる社会を実現します。



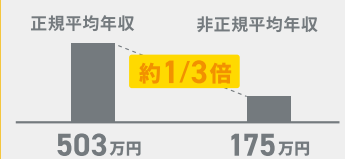
### 親の年収と大学進学率



### 学歴と非正規雇用率



### 雇用形態による年収の格差



わたしたちは、段階的なアプローチで子どもが貧困の連鎖を脱するための社会インフラを整え、1人でも多くの中高生に困難を乗り越える力を提供します。

# APPROACH

01

## 困難な状況にある 中高生に伴走する

困難な状況にある中高生へ、プログラミング学習支援とキャリア教育を完全無料で届け、「自走」を支援

→ 5P

02

## 仕組みを全国に広げる

プログラムの質の向上に取り組むとともに、各地域の団体や機関と連携し、全国の中高生へ自走支援を展開

→ 13P

03

## 制度に組み込む

デジタルの学びを通じて、困難を抱える中高生の支援モデルの有効性を提言し、制度に組み込む

→ 14P



# TOPICS

2023年度の4つのトピック

## 01 よどがわベース スタート!



様々な困難を抱える中高生が、自分の「好き」や「やってみたい」から居場所を見つける秘密基地をオープン!

11月に、大阪市淀川区十三にオープンしました。プログラミングだけでなく動画編集、デザイン、デジタルお絵描きなどのソフト系から、ロボットや電子工作などのハード系までの機器を備え、デジタルやクリエイティブな活動を楽しみながら学べる環境を整えています。

詳しく → 8P

## 02 Tech Runway 愛媛 実施しました!



大阪、東京で実施してきたTech Runwayを、9月に愛媛県西条市でも実施しました。

自治体や地域団体との協力・調整を行い、実施となりました。対面とオンラインを組み合わせ、かつ対象を高校生だけでなく中学生まで広げ、地方都市での展開を模索しつつプログラムを実施しました。地方都市ならではの課題も見付き、今後さらに地方展開に臨むうえでイメージも膨らみました。

詳しく → 9P

## 03 FORBES JAPAN 30 UNDER 30 受賞!



理事長の平井が「FORBES JAPAN 30 UNDER 30 2023 日本発 世界を変える30歳未満」に選定されました。

受賞コメントでは、「事業を仕組み化し、再現性を高め、各地域の団体や機関にどんどん使ってもらえるようにしたい。」と語らせていただきました。今回の受賞は、これまでの平井およびCLACKの活動への評価、また今後の期待を込めていただいたものと認識しています。

## 04 5周年を迎えました!



法人設立5周年を迎えました!

5周年を記念して、これまでCLACKの活動で関わった修了生、大学生メンター、社会人エンジニアのOBOGを招き、大阪で同窓会イベントを実施しました。最初はたった2人の生徒から始まったCLACKの支援も、今では年間200名近くに届けられるようになりました。

# TEAM

生まれ育った環境に関係なく、子どもが希望とワクワクを持てる社会

に向けて、活動する仲間を紹介します!

♥ イチオンの旅行先

★ 2023年度の個人的ニュース

理事 CLACKのビジョン達成に向け、向かう先を定め舵を切る経営陣です。



大阪出身 CLACK活動歴 5年9ヶ月  
平井大輝  
理事長  
♥ 博多  
★ 毎年何かにハマるのですが今年はラジオとプロ野球です



京都出身 CLACK活動歴 3年5ヶ月  
中川公貴  
理事 / 事務局長  
♥ インドのレー  
★ 結婚しました!



千葉出身 CLACK活動歴 1年0ヶ月  
白井智子  
理事  
♥ 台北  
★ 海外に出たいと言い捲ったら毎月海外出張に行く羽目に

社員 CLACKの活動をフルタイムで支えています。様々な経歴・バックグラウンドのメンバーで構成されています。



大阪出身 CLACK活動歴 3年  
井上泰孝  
事業統括部長  
♥ 和倉温泉  
★ 読書する時間が増えました! 学ぶのはいつも楽しい!



岐阜出身 CLACK活動歴 9ヶ月  
徳永百合名  
広報部 部長  
♥ 沖縄県 座間味島  
★ フルリモートの"良さ"と"人恋しさ"を同時に感じています!



福井出身 CLACK活動歴 3年2ヶ月  
前田勝紀  
東京エリアマネージャー  
♥ 福島県の浜通り  
★ 自分のペースでやれる運動は好きなことにつながった



東京出身 CLACK活動歴 3ヶ月  
小浦友梨  
デジタル伴走支援事業部 部長  
♥ トルコ・イスタンブル  
★ バインダークアというペトナム料理にハマりました!



山口出身 CLACK活動歴 6ヶ月  
豊田周平  
パートナー連携部 部長  
♥ 山口県! なんもないけど笑  
★ 40代半ばにして初マラソン! なんとかなるもんですね!



埼玉出身 CLACK活動歴 3ヶ月  
川口 菜美  
経営企画室  
♥ 沖縄!  
★ CLACKに出会い、転職を決意したこと



大阪出身 CLACK活動歴 2年3ヶ月  
木村和幹  
中高生支援部  
♥ 京都  
★ 1年間で体重5kg増。ダイエットを決意。



岐阜出身 CLACK活動歴 3ヶ月  
齋藤汐帆  
よどがわベース館長  
♥ 小樽! お寿司が最高!  
★ 人生初沖縄に行きました! 海の綺麗さに心が洗われました。



業務委託 社会人がそれぞれの専門性を活かして関わっています。



静岡出身 CLACK活動歴 2年3ヶ月  
森川 悟  
教材開発部長  
♥ 最近愛媛  
★ 娘が大学生になって髪の色が青とか緑になりました。かっこいい!



大阪出身 CLACK活動歴 2年5ヶ月  
前田美樹  
事務局  
♥ 花巻の大沢温泉  
★ 4年弱住んだ家から引っ越しました



兵庫出身 CLACK活動歴 1年5ヶ月  
高橋克直  
TR+京橋マネージャー  
♥ 名古屋  
★ 生徒から刺激を受けて、新しい技術分野に挑戦します!



福岡出身 CLACK活動歴 2年5ヶ月  
中川 椋介  
TR+京橋マネージャー  
♥ 青森  
★ サッカー観戦にハマりました!



東京出身 CLACK活動歴 1年5ヶ月  
伊東志織  
TR+東京マネージャー  
♥ 広島県尾道市  
★ 観葉植物にハマりました! 一年で10鉢増えました!

### メンター・クルー

CLACKのプログラムに関わる中高生に寄り添い支援を行うチームです。

### 社会人エンジニア

実際に企業で活躍するエンジニアが、中高生の学びを支えています。

# APPROACH

01

## 中高生の“自走”を支援する CLACKの伴走支援

CLACKの自走支援モデルでは、「出会う」「学ぶ」「実践する」の3ステップで、中高生が自立するために必要なスキル・知識を育み、将来の選択肢を広げます。

### 困難を抱える中高生支援の3つの難しさ

#### 01 出会う難しさ

- 義務教育が終わり、行政としてもつながりが途切れてしまう
- 学習経験の不足から、中高生自身に自分で情報を見つける能力が育まれていない

#### 02 行動を促す難しさ

- 学校と家の行き来の生活から一歩踏み出すまでのハードルが高い
- 客観的に自分を見つめる経験の不足から、現状を変えるために行動を起こす必要性を感じにくい

#### 03 継続の難しさ

- 自己肯定感の低さややりきる経験の少なさから、小さなことで挫折してしまう
- 何かをやると決めたとしても、アルバイトや友人からの誘いを優先してしまい、継続できない

### Step1

ITを身近に感じてもらい、プログラミング学習へのハードルを下げる

## 出会う

事業報告 7P

### プログラミング体験会

- ロボットプログラミングなどのテクノロジーを体験
- “楽しい”を入口に“学んでみよう”

### デジタル居場所

### よどがわベース 事業報告 8P

- プログラミング、動画編集、デザイン、3D/2Dモデリングなど、興味のあるデジタル機材に触れ、楽しみながら学べる場

### Step2

進路の選択肢を広げ、経済的・精神的な自立につなげる

## 学ぶ

### Tech Runway 事業報告 9P

#### 3ヶ月間のプログラミング教室

- Webサイト/サービス制作のプログラミング技術
- メンターのサポートによる精神面の成長
- 学びのワーク(情報の集め方、将来、お金、生活)
- 大手IT企業との交流を通じたキャリア教育

### Tech Runway+ 事業報告 11P

#### ITエンジニアや情報系進学を目指す実践的プログラミング教室

- 修了生が3ヶ月間でより専門的な内容を学ぶ場
- 今後のキャリアを見据えながら継続的に学ぶ力
- 企業と連携し、高校生が実際にITを使って有償インターンができる

### Next Step

学び、実践したことを活かし、自立につなげていく

## 自走する

就職

進学

### クエスト 事業報告 12P

#### お金をもらって挑戦する実践経験

- Webサイト制作やシステム開発を通じて、実際の“ITに関わる仕事”の一部を経験できる

### インターン/アルバイト 事業報告 12P

#### IT関係の企業で、実際に長期インターンシップに参加

### Be Pro 事業報告 13P

#### 専門性の高いITスキルを学ぶことで、キャリアの選択肢を広げる

- 短期集中で専門的なITスキルを学び、インターンシップで実践する



### 中高生と出会う

連携学校数 **95校** 連携団体数 **21団体**

**事業概要** 困難を抱える中高生とつながるためには、「出会う難しさ」と「行動を促す難しさ」があります。そのため、CLACKでは学校やNPOなどの支援団体と連携し、身近な大人から紹介をしてもらうことで参加のハードルをさげることを大切にしています。

### 放課後居場所カフェ

実施回数 **全20回** 参加人数(延べ) **698名**

#### 事業概要

安心して自分らしく過ごせる場所を学校内に作ることを目的に、大阪府立東淀工業高校内で月2回程度、放課後カフェを運営しています。お菓子やジュースの提供に加えて、VRやドローンなど最新テクノロジーに触れる機会も設け、ちょっとした悩みや他愛もない話ができる関係性に加えて、高校生の関心を広げるサポートをしています。



#### 今年度の活動

##### 次のステップを見据えた場に

放課後カフェに参加した生徒がよどがわベースやプログラミング体験会といった場に参加するという、ステップアップの場にもなりました。



### プログラミング体験会

参加者 **大阪 187名** **東京 106名**

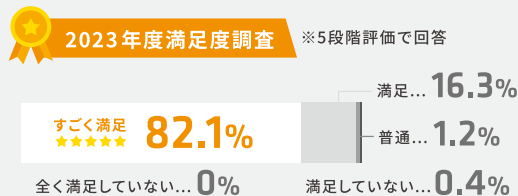
#### 事業概要

高校生がITに触れ、関心を持ち、挑戦したいと思えるきっかけの場として、コードを使わないプログラミングや、簡単なWebサイト制作を行う体験会を開催しています。パソコンに触れる機会がなかったり、初めての空間でコミュニケーションをとるのが苦手だったり、様々な高校生が参加しています。どんな高校生でもITを「自分でもできそう」「おもしろそう」と思ってもらえるように体験会では、2~3名の高校生に対して大学生メンター1名がつき、丁寧なサポートを心がけています。

#### 今年度の活動

##### ロボットプログラミングとWebサイトの制作に統一

昨年までは大阪と東京で体験会の実施内容が異なりましたが、今年の冬季体験会から内容をロボットプログラミングとWebサイトの制作に統一しました。拠点間で同じ内容を実施することで研修も統一でき、拠点間での改善点の議論が進み、質の向上につながりました。ロボットプログラミングでは自分で指示したものが動く経験ができ、よりプログラミングを身近に感じることが出来るため、高校生からも男女問わず好評です。



### New!

よどがわベース(デジタル居場所) **参加人数(延べ) 334名** **登録人数 25名**

#### 事業概要

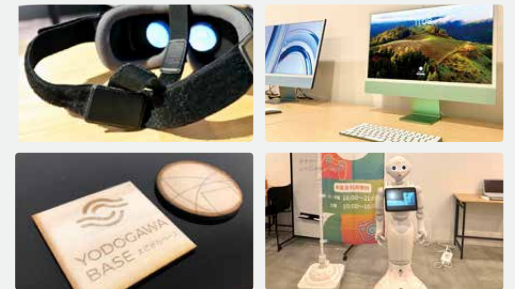
よどがわベースは、日本財団と淀川区役所と連携協定を結び、中高生がテクノロジーに触れられる秘密基地として、2023年11月に大阪市淀川区にオープンしました。淀川区役所や地域で活動しているNPOなどと連携をしつつ、さまざまな困難を抱える中学生や高校生に広くアウトリーチをしています。3Dプリンタやレーザーカッター、ゲーミングPC、大画面でeスポーツができる設備などのデジタル機器だけでなく、300冊以上の漫画や多様なボードゲーム、ゆっくりくつろげるソファなど、デジタル関係のこと以外でものんびりできるスペースもあります。また、よどがわベースでは、利用者の中高生に対して①安心できる居場所をつくること、②興味関心に合わせてデジタルに触れられる機会をつくること、③一人ひとりのやりたいことを継続的にサポートすること、といった3つのステップでサポートをし、困難を抱える中高生の将来に自立のための一歩目の創出を目指しています。



#### 今年度の活動

##### インフラ整備からスタート

今年度は初年度ということもあり、物件探し、内装工事、機材の準備などのインフラ整備からスタートしました。現在でこそよどがわベースの内装は整い中高生が利用できる状態ですが、物件を契約した当時はスケルトン状態でした。そこからクジラ株式会社と連携し、コンセプトやイメージを固めながら1Fの工事を進めた結果、開設にたどり着くことができました。



##### 淀川区役所との連携のもと周知を行う

##### 中高生が興味を持ってくれるようなイベントの企画

淀川区役所との連携のもと、地域の中学校や支援団体向けの周知を行ったり、中高生が興味を持ってくれるようなイベントの企画なども行いました。一度でもよどがわベースに来てくれた中高生はその後も繰り返し来てくれることが多く、想定通り進んでいます。来年度はさらに広くアウトリーチするため、淀川区役所との連携をベースに、他区で活動するNPOなどの支援団体との連携の強化を進めていきます。

##### デジタルに触れる機会をつくる工夫

中高生が館内でつける名札をレーザーカッターで作ったり、Pepperくんを導入しプログラミングで動かせるようにしたりしました。ペンタブでのデジタルお絵描きも思いのほか人気で、自分の作画+生成AIを組み合わせた作品を作ったりもしています。来年度は今年度以上に、よりデジタルを楽しみつつ学びを深められる機会を中高生と一緒につくっていきます。また、今年度は試験的に単発での食事提供を行いました。来年度からは定期的実施していきます。

#### 参加生徒の声

自分で想像したものをレーザーカッターなどを使って創作しています。学校ではなかなかできないことを、よどがわベースでは試行錯誤しながらできるのが面白いです。

違う学校の人と出会えるのが楽しいです。また大学生のスタッフとも色々話せて、部活や勉強や課外活動など、色々あるけれど気分転換になります。

将来、ボカロPになることに興味があります。よどがわベースでは、実際にボカロのソフトに触ることができるので将来やりたいことに向けて経験をつめる感じがして楽しいです。

3Dプリンターで、好きなゲームのメダルを作ってみました。高校生の先輩がやっていて難しそうだったけれど、教えてもらいながらやってみたら簡単でした。次は自分で機械を動かしてやってみたいです。

## Tech Runway

目に見えづらい相対的貧困によって、塾や習い事、家族旅行や文化体験といった機会にアクセスしづらくなります。その結果、子どもは学力向上や成功体験を通じて自己肯定感・自己効力感を育む機会を得にくくなります。CLACKは、スキルを身につければ職につながりやすいことはもちろん、スキル習得の過程で「私にもできる!」という本人の自信や成功体験の獲得につながりやすいことから「プログラミング」の学びを起点に、子どもの“自走”のための支援を行っています。



### CLACKが注目する3つの不足

- 01 経験**  
塾や習い事、文化体験などの知的好奇心や学習への姿勢などが育まれる経験が不足しています。
- 02 つながり**  
困ったときに頼れる大人や、ロールモデルとなる大人とのつながりが少ない傾向にあります。
- 03 考え方**  
困難な状況で育つ中で、短期的・消費的な思考にならざるを得ず、貧困の連鎖から脱することが難しくなります。

プログラミング学習支援とキャリア教育を行うことで  
進路の選択肢を広げ、経済的自立と精神的自立につなげていく

### プログラミング学習支援

プログラミングを3ヶ月間で学び、自分でWebサイト・Webアプリを作れるようになるまで講師が寄り添ってサポート



### キャリア教育

今後の生活に必要なお金、進路、働き方などについてワークショップや交流会を月に2回程度開催



### 事業概要

Tech Runwayでは、週2回・3ヶ月という期間の中で、自分でWebサイトやWebアプリを作れる状態を目指します。ほぼ全ての生徒がプログラミング初心者、かつ元々の意欲もあまり高くない状況からスタートします。大人でも学習の継続が難しいとされるプログラミングですが、CLACKでは高校生との関わり方について研修を受けた大学生メンターや社会人エンジニアが高校生に伴走し、意欲をつくるところから学びをサポートします。

困難な状況にある子どもは、自身の興味・関心をはぐくむ、学校外での“経験”や、社会的な“つながり”、計画性やどう学べばいいかといった“考え方”が不足する傾向にあります。

そのため、プログラミング学習だけでなく、キャリア教育として、ワークショップや企業への見学を通して、生活、進学に必要なお金、働き方について考える機会を隔週で提供しています。

3ヶ月間のプログラムの締めくくりとなるのは、自身で作ったサイトやアプリを教室でプレゼンする最終発表会です。人前に出るのが苦手な高校生でも、自分のペースで自分でつくりたいものを考え、アウトプットしていきます。その過程では、スキルの獲得だけでなく、高校生の自主性や創造性、問題解決能力も育まれています。



### Tech Runway で得られるもの

#### プログラミング・IT知識

これからの社会で役立つITの知識やAIの活用方法などを身につける

#### 学習意欲

プログラミング学習支援とキャリア教育を通して、新しいことを面白がる力や振り返り学ぶ力を磨く

#### 自己肯定感

大学生、社会人といった様々な人に支えられながら学ぶ経験を通じて、自己肯定感をはぐくむ

#### 問題解決能力

プログラミング学習支援の中で、問題を見つけ解決するための思考方法や情報の集め方・使い方を身につける

### Tech Runwayの特徴

- 01 完全無料** 経済的な理由で学びを諦めることのないよう、完全無料で実施します。
- 02 PC支給** プログラミング学習に使用するノートPCを無料で支給しています。
- 03 交通費支給** 教室までの交通費も、1日1,000円を上限に支給しています。

### 今年度の活動

プログラム完走率 **94.8%**

参加者 **135人** 大阪 **45名** 堺 **45名** 東京 **45名**

#### ✓ 教室でも生成AIを積極的に活用

生成AIが急速に発展してきており、将来的には「AIを使えて当たり前」になると予想されます。そのため、早い段階から高校生にも積極的に生成AIに触れ身近に感じてもらえるよう、教室ではChatGPTをはじめとした生成AIの活用を積極的に推進しています。ChatGPTを試すワークショップをはじめ、プログラミング学習でわからないことがあったときなどに積極的に活用するよう、大学生メンターから呼びかけています。

最初は戸惑いがあった生徒たちも次第に慣れ、ChatGPTにコードエラーの原因などを聞きながら学習を進められるようになりました。また、生成AIの活用に関しては知的財産権や情報の秘匿性などの課題も上げられていますが、こうした課題面も含めた“AIの向き合い方”についても一緒に考えています。

#### ✓ 対面とオンラインのハイブリッド型での実施

これまで対面で実施してきたTech Runwayの教室を、一部の日程をオンラインで実施するようになりました。遠方から参加する生徒も増え、移動時間が長くなるため、オンラインにすることで参加のハードルを下げることを目的としています。Tech Runway運営のノウハウが溜まってきたこと、大学生メンターの研修に注力してきたこと、Tech Runway愛媛でのハイブリッド形式実施も順調に進んでいたことから、オンライン化しても学習や支援の質も維持できると判断し、一部のオンライン化に踏み切りました。

### これからの課題

#### ✓ 他事業（よどがわベース）との連携

2023年11月に開所した「よどがわベース」と連携し、よどがわベースに通う中高生が、居場所支援から学習支援に移行できる流れを作りたいと考えています。初めからプログラミング学習支援に挑戦することは難しくても、よどがわベースで安心感や学習意欲の土台ができ、Tech Runwayに挑戦できるようになることが一つの目標です。

### 生徒の声

3ヶ月間長いようで短く、参加できない日程もありましたが、とても楽しくプログラミングを学ぶことができました。最終的には、自分の思うようなサイトを作ることが出来て嬉しかったです。

メンターの方に「プログラミング作業の取り組み方を変えたい」と伝えると、何を意識するべきかを教えてくれ、また定期的に一緒に進捗を確認したり、やり方の修正などをサポートしてくれました。

自作のWebサイトをどのようなものにするか一人では全く案が出なかったとき、メンターや他の生徒さんが一緒にアイデアを出してくれたのが嬉しかったです。





## Tech Runway +



### 事業概要

Tech Runway + は、Tech Runway 修了生のうち希望者を対象とした継続的にプログラミングを学習するためのプログラムです。エンジニアや情報系の学校への進学を希望する高校生が多く参加しています。Tech Runway と異なり、自分の力で学習を継続する主体性を大切にしており、高校生自身で決めた目標や学習内容に対し、実際に社会で活躍するエンジニアが高校生のサポートを行います。

目標は、ITパスポートなどの資格取得や、Webサイトやアプリの制作など様々。3か月の開講期間、毎週土曜に対面で開催される教室は、主に自宅学習で生じた質問を解消する場となっています。

### 今年度の活動

#### ✓ キャリアトークの実施

ボランティアとして参加するエンジニアが、キャリアや現在の仕事について話す「キャリアトーク」を開始しました。参加する高校生が自分の興味関心を広げ、自分の将来を考える材料を増やして欲しいと考えています。

#### ✓ 生徒が自分で学習のスケジュールを立てるように！

高校生が作りたいもの（Webサイト、アプリなど）の完成に至るまでのマイルストーンを、高校生自身に立ててもらうようにしました。スケジュールをすることで、どんな工程が必要か、何を勉強する必要があるのかなどを、自分で考える機会を作っています。

参加者 大阪 75名 東京 47名

継続参加者のうち最も長い期間 2年3ヶ月

### 参加生徒の声

コードの書き方をたくさん教えてくれたのでCSSをうまく使いこなせて、見た目にも凝ったものを作ることができました。

この技術を使ったらもっとこういうものも作れるんじゃないか、など具体的に話して下さり、作品の幅が広がりました。



## New! Tech Runway 愛媛

### 事業概要

参加者 13人

これまで大阪、東京の大都市圏で行ってきたTech Runwayを、2023年度は地方部にも広げるため、第一弾として愛媛県西条市にて実施しました。大都市圏と比較して、地方都市圏では学びや進路の選択肢が少ない現状があります。情報系の学科のある大学が国立大にしかない、就職を目指せそうなIT企業がない、そもそも自宅から通える範囲に高校がないなど、地方都市ならではの課題があったことからのスタートとなりました。

また、普段は困難を抱える高校生を対象にしているTech Runwayですが、愛媛拠点では早い段階で進路の選択肢を考えられるように、中学生から参加できるようにもしました。

#### ✓ 地方都市での実施にあわせたアプローチ

Tech Runway愛媛では、<話しやすい、相談しやすい関係性をつくれる対面形式>と<都市部ほど交通インフラの選択肢が多くない地方都市でも参加しやすいオンライン形式>を組み合わせたハイブリッド形式で行っています。オンラインではメタバース空間を使用してプログラミング学習の画面を常に共有した状態で行います。対面のときと同様に、分からないことがあったらすぐにメンターやエンジニアに質問ができます。ハイブリッド形式でのTech Runway運営は初の試みでしたが、教室の出席率や継続率は大阪、東京で行ってきた対面形式と同等をキープできました。

### 参加生徒の声

同じ愛媛の中でも、学年を超えてたくさんの人と会話できました！他の参加者が自作PCづくりやゲーム制作をしていたという会話を聞いて、良い刺激をもらえました。



## Step3 · 実践する

### New! クエスト

### 事業概要

クエストはCLACKがWebサイトやシステム開発を受託し、高校生に一部の仕事を切り出して委託することで、高校生へ実践の場を提供する事業です。高校生が学んだことを実践すること、企業が求める技術とのニーズにはギャップがあります。しかし、CLACKが中間に入りこのギャップを埋め、IT人材としてステップアップできる場をつくります。CLACKで学んだ技術を活かし、高校生が「自らの力で稼ぐ」体験を提供します。

また、5年ほど活動していく中で、団体内に高校生の意欲とスキルを高めるノウハウも溜まり、フルタイムの社員の中にもプログラマーやSE、Webディレクター出身のメンバーも増えてきました。

「CLACKとしてIT関係の業務を受けても、依頼して下さった方に満足してもらえるモノを納品できるのではないか」「依頼者の売り上げや知名度UPにつながり、高校生にとっても実践の機会とお金を稼ぐ経験を得られ、CLACKにとっても寄付や助成金による収入だけに頼らず事業を継続的に進んでいくための収益源となる“三方良し”の形をつくれるのではないか」そう思い、CLACKでプログラミングを学んだ高校生が仕事として実践の機会を持ち、収入も得られる「クエスト」という事業を昨年の9月頃から始めています。



実施件数 7件 参加者 6人

### 今年度の活動

#### ✓ 有限会社 野見山建設のサイト作成

最初の案件は、十三の工務店である有限会社野見山建設のコーポレートサイト作成から始まりました。お客様からも「頼んでよかった」との声を頂いています。現在複数企業から受注、納品しています。来年度は多くの困難な高校生へ機会を提供できるように仕組みを作っていきたいと思っています。

### 2023年度受託業務

- ✓ 有限会社 野見山建設 コーポレートサイト作成
- ✓ NPO法人ETIC、「and Beyondカンパニー」公式サイトリニューアル
- ✓ 公益財団法人イノベシスト Webサイト・SNSの運用保守など

### 参加生徒の声

最初にHP制作に誘われた時は、自分に出来るのかと不安が凄かったです。デザイナーの方がとても丁寧に教えてくれ、初心者でもやりやすかったのが楽しく作れたと思います。この制作を通して、自分にもできるんだという自信にも繋がり、自分で調べる力も身についたと感じました。大変でしたが、楽しく充実した時間でした。

## インターン 実施企業 株式会社 Mountain Gorilla

### 事業概要

インターンシップでは、高校生（Tech Runway +に通う生徒が対象）に、社会の中で活動する機会を企業と連携して提供しています。インターンを通して社会の中で実践することで、学習したことの意味や実際にスキルを使えるという実感を養います。業務に関するサポートは企業が行い、CLACKはインターンに参加する高校生への声かけやインターン中のメンタル面でのフォロー等を担当しています。

### 今年度の活動

#### ✓ 卒業生が長期インターンに参加

今年は、IT企業の株式会社 Mountain Gorilla様にて、2名の生徒が長期インターンに参加しました。実施している業務は、同社サービスのカスタマイズ業務です。Tech Runwayで学んでいたプログラミング知識を超える技術が求められるため、生徒は半年間の学習期間をこなしてから実際の業務を行いました。2人の活躍は社員の方からも評価されており、「コードを書く手がよく動く」「想像以上にしっかり仕事をしてくれる」といったコメントもいただいています。

### 参加生徒の声

仕事でプログラミングをするという経験が無かったので、自分の成長のためにもやってみたくらいに参加しました。最初は不安でしたが、CLACKやインターン先の方にも優しく気にかけていただいたので安心して仕事が出来ました。

「1つのプロジェクトを皆で分けてやる」といったことが凄く新鮮で、驚きと感動がありました。実際の仕事をすることで、自分が働くときの未来が想像しやすくなり、もっと頑張ろうと思えました。とてもいい機会に巡り会えました！



## Be Pro

参加者 20人 プログラム完走率 100%

### 事業概要

Be Proは、専門性の高いITスキルを学ぶことで、キャリアの選択肢を広げることを目的としたプログラムです。株式会社セールスフォース・ジャパンのご協力の下、Salesforceのスキル習得を基軸にしたプログラムを実施しています。学習難易度の高いスキルでも高校生にとって学習しやすいよう、CLACKでプログラム設計を行っています。

### 参加生徒の声

今回このプログラムに参加することで、Salesforceの知識や新たな価値観を知る貴重な機会になりました。またこういう機会には積極的に取り組み、色々なことに挑戦していきたいと思っています。

### 今年度の活動

#### ✓ 講座の内容をアップデートしました

昨年度までは講義型の学習が多かったため、今年からはグループワークなど高校生が主体的に取り組める時間を増やしました。例えば「高校の文化祭をテーマにSalesforceをどう活用するか」というワークでは、自分たちの身近な状況なので考えやすかったこともあり、各グループごとにバラエティーに富んだ発表となりました。



# APPROACH 02

## 仕組みを全国に広げる

### 事業概要

CLACKだけで、拠点を数十箇所つくるのは現実的ではありません。各地域に根ざした団体のみなさんに、Tech Runwayやデジタル居場所のノウハウを取り入れてもらう形を考えています。また、各地域で団体や事業を立ち上げる際に、CLACKのノウハウだけではなく、子どもたちに渡すノートPC、教材、立ち上げ費用などを提供することも考えています。地域に想いのある人がいれば支援を始められ、大都市、地方都市にあったそれぞれの形で、持続的に良い支援を実施できる形を模索しています。

### 今年度の活動

#### ▶ 大都市圏版

##### ✓ 大都市圏での展開の可能性を模索

CLACKの直営拠点のある大阪・東京以外での大都市圏での展開の可能性を模索しています。例えば、名古屋、仙台、福岡のそれぞれの都市に講演や合宿等で出張した際、現地の企業や既存の子ども支援団体と関係性づくり、ヒアリング、意見交換などを行いました。各地域でそれぞれニーズは異なりますが、ノウハウ展開を進める上でのステークホルダーのイメージが掴めてきたことで、将来的に自走支援を日本全国に広げられる可能性が見えてきました。

#### ▶ 地方都市版

##### ✓ 地方都市でも持続可能なモデルを模索

大都市圏だけではなく、人口10万人~50万人程度の地方都市でも持続可能なモデルを模索しています。今年度愛媛県で実施した支援で得られた知見を溜めつつ、高知県や秋田県でテクノロジーを活用した居場所を運営する他団体の視察を行いました。この視察で得られた知見を元に、どういった地域資源があれば展開可能かを、少しずつ模索しています。また、2023年度は山梨県全体で子ども支援を広く行うNPOの理事長・副理事長がTech Runwayの教室を見学に来てくださり、山梨県での展開可能性について意見交換させていただくなど、実際に今後ノウハウ展開につながりそうな問い合わせも各地域からいただいています。

# APPROACH 03

## 制度に組み込む

### ▶ 政策提言

#### 事業概要

Tech Runwayやデジタル居場所を多くの地域に展開し、持続的に広げていくため、国や自治体の制度化も有力な選択肢として考えています。また、困難を抱える中高生を支援する上で、学校だけでサポートを行うことには限界があります。そのため制度化を目指す以外にも、地域での包括的な支援を行っていくため、学校、行政、NPO、企業が個人情報や組織構造の壁を超えて連携し、必要な支援を必要なタイミングで必要な子どもに届けるための自治体単位での連携、政策提言もじっくりと進めています。

### 今年度の活動

- ✓ **官僚** 厚労省・文科省の官僚の方にTech Runwayの教室や発表会を見学していただき、困難を抱える高校生の実態や支援の現状について意見交換を行いました。
- ✓ **国** パブリックアフェアーズを得意とする株式会社 PoliPoliにご協力いただき、与党・野党それぞれの国会議員と個別での意見交換を実施しました。
- ✓ **自治体** 複数の自治体の首長と直接話す機会をいただき、支援ニーズの確認や自治体での予算化について話し合いました。

### ▶ 社会的インパクト評価

#### 事業概要

子どもや若者の自立支援や貧困問題の解決に向けて、これまでCLACKではTech Runwayの参加前後でアンケートを取り、評価と改善に努めてきました。より客観的で信頼性の高い評価を行い、中長期的な視点や社会的な影響を考慮して事業や団体運営を改善するために、スクールソーシャルワークのプログラム評価を行う大阪公立大学の山野則子研究室と協力して、社会的インパクトを測定する取り組みを行っています。2023年度の事業評価については、2024年10月を目途に公開予定です。

# STORY

## これまでのCLACKの歩み

おかげさまで、CLACKは設立5周年を迎えました。これまでの歩みをご紹介します！

### 事業の開始

- 2018 Tech Runway 大阪教室 スタート
- 2020 コロナ禍のオンライン支援 テックGIFT実施
- 2020 放課後居場所カフェ スタート
- 2021 Tech Runway + 大阪教室 スタート
- 2021 Tech Runway 堺教室 スタート
- 2022 Tech Runway 五反田教室 スタート
- 2022 Tech Runway + 東京教室 スタート
- 2023 Be Pro スタート
- 2023 Tech Runway 愛媛教室 スタート
- 2023 よどがわベース スタート
- 2023 クエスト スタート

### 法人関係

- 2018 任意団体 CLACK 設立
- 2019 NPO 法人 CLACK の法人格を取得
- 2023 認定NPO 法人化
- 2023 大阪マラソンチャリティ団体に決定





# NEXT CHALLENGE

## 2024年度の取り組み

### 東京のデジタル居場所の開設準備

みてね基金に採択いただき、大阪の「よどがわベース」のような中高生向けのデジタル居場所を、東京都内の鷺ノ宮でも2024年度中に開設予定です。よどがわベース開設時のよかった点と反省点を活かし、一棟まるまる借りつつ、その地域の中高生がワクワクする居場所をつくっていきたくと思っています。これまでのCLACKの拠点の中では、最も広い拠点になる予定です。

CLACKがこれまで関わってきた中高生の中にはものづくりに興味のある中高生も多くいるため、IT系だけでなく、ハードウェア系の企業とも連携していきたいと考えています。



### クエスト本格始動

2023年9月頃から始めた「クエスト」事業をより強化していきます。

#### ▶ Webサイト制作

企業や団体様のWebサイト制作、リニューアル、更新対応、保守運用を行っています。今のところ、地域に根ざした工務店や認定NPO法人ETIC様、財団法人から動物園まで、幅広い企業・団体様から、新しいWebサイトの制作、既存サイトのリニューアル、保守運用などの案件を受けさせていただいています。また、CLACKのWebサイトもほとんどがクエスト事業部に依頼して作ったものになっています。

#### ▶ Web制作以外のITの困りごと

Webサイト制作やリニューアル以外にも、様々なIT周りの業務についてご相談いただけるケースも増えています。例えば、非営利団体の寄付者管理や問い合わせなどのシステム運用保守、SNSの運用、Webサイト公開までのテスト、LINE公式アカウントの作成と運用、チラシやロゴのデザインなど。単純作業から専門性の必要な業務まで、様々な案件を発注いただいています。もちろん中には受けられない案件もあるものの、CLACKもフルタイムのメンバーが10人を超え、コーディング、デザイン、ディレクション、Webマーケティング、ライティングなどの業務に対し、今までの職歴で業務経験のあるメンバーが集まっているため、前向きに検討が可能です。



### 生成AIの可能性の模索

マイクロソフト社と協働し、工業高校や商業高校の先生方に生成AIの使い方の研修を行う「mirAI for Japan」を実施します。文章生成、画像生成、映像生成などを題材にした先生方への研修を通じて、その先にいる多くの高校生に学びの機会を届けていきます。生成AIの発展で、ITエンジニアの仕事の進め方も変化していきます。CLACK内でも有志で生成AI学習チームをつくり、様々なサービスの可能性を模索しています。このプロジェクトでできた生成AIのコンテンツや研修は、Tech Runwayやよどがわベースなど、CLACKの事業にも還元していきます。



### チェンジメーカー奨学金

月2万円の給付型奨学金を高校3年間支給し、かつ海外渡航を含む越境体験、テクノロジー体験、ゼロイチ体験という3つのチャレンジの機会を無償で提供する奨学金プログラムを実施します。複数名の経営者からご寄付をいただき実現しました。初年度となる2024年は、関西の新高校1年生5名を奨学生として受け入れる予定です。大学在学中にCLACKを立ち上げた代表の平井は、高校生時代に給付型奨学金をもらっていました。その平井を中心として実施するこのプログラムは、将来新しい仕事・産業をつくっていく「チェンジメーカー」の輩出を目指します。



活動内容が「特徴的」と言われることの多いCLACK。

## Q&A

よくある質問

初めてCLACKを知った方によく聞かれるQ&Aを掲載します！



### CLACKについて

#### Q. 認定NPO法人ってなんですか？

全国にNPO法人は約5万団体あります。認定NPO法人とは、活動内容が適正であるとして各自治体から認定を受けた団体のことを指します。全国でわずか2.5%しかなく、CLACKは、大阪市の認定を受けています。認定NPO法人への寄付は、寄付金控除、損金算入の対象となります。

#### Q. CLACK設立の経緯は？

CLACKは、代表の平井が大学在学中に立ち上げました。詳しくはQRのページをご覧ください！

### Tech Runwayについて

#### Q. なぜ高校生が対象なんですか？

食事、学習、居場所支援などの小中学生への支援は拡大している一方、義務教育を終えた高校生は将来を見据える重要な時期を迎えるにも関わらず、これらの支援から漏れてしまうという現状があります。大人でもあり、子どもでもある高校生年代を対象に必要な支援をつくっていくことがCLACKが機会格差解消に貢献できることだと考えています。

#### Q. なぜプログラミング？

##### ● ITエンジニアへの第一歩

2030年に不足するIT人材の数は最大で79万人とされています。IT人材に対する社会的なニーズは高く、プログラミングのスキルを身につけることができれば仕事につきやすくなります。

##### ● ITエンジニアを目指さなくても役に立つ

テクノロジーが進歩する中で、ITやAIに慣れ親しむことはどのような仕事につくにしても重要になり、将来に役立ちます。

##### ● 高校生のなりたい職業 プログラマーが1位

デジタルネイティブ世代の今の高校生にとって、YouTubeやTikTokはテレビより身近な存在です。また、プログラミング教育の義務教育化やGIGAスクールの浸透によって、ITを身近に感じる生徒が増えています。5教科の勉強は苦手でもプログラミングならやってみよう、という高校生も増えています。

##### ● 自己肯定感や学習意欲の向上にもつながる

プログラミングが社会で使われているケースが示しやすいため、「なぜ学ぶのか」の動機付けがしやすいことがあります。また、学んだ成果が実際の画面上ですぐに表現できるため、自己肯定感の向上に重要とされている「小さな成功体験」を積みやすいとされています。

#### Q. どうやって参加者を集めてるんですか？

「プログラミング体験会」に参加し、Tech Runwayに興味を持った生徒が応募に進みます。(P7参照) 体験会やTech Runwayの周知には、地域の高校や他のNPO、行政のケースワーカー、社会福祉協議会など、様々な方にご協力いただいています。

#### Q. 有料での人材紹介は行なっていますか？

生徒の進路の選択肢を狭めないために、人材紹介は行っていません。一部、CLACKの関わりのある企業と連携し、ITを使った仕事をする経験や機会を提供しています。

#### Q. 誰が教えてるんですか？

高校生3人に対し大学生メンター1人が担当し、こまめなコミュニケーションを取っています。さらに高度な技術の質問は、現役でIT企業に勤めるエンジニアがサポートしています。

### よどがわベースについて

#### Q. 子ども食堂もやっていますか？

食事提供はメインの役割ではありませんが、家で食事が出ない生徒もいるため、よどがわベースに来ている中高生を対象に、週1~2回食事提供を行っています。

#### Q. 利用期間は？

よどがわベースに利用期間の制限はありません。中学校入學から高校卒業まで、何年でも継続して参加いただけます。

#### Q. 淀川区民以外でも利用可能ですか？

住んでいる場所や学校に通っているかなどに関係なく、中高生年代であれば誰でも無料で利用可能です。





# INTERVIEW

## CLACK支援の今までとこれから

### NPO×デジタルの可能性とは



認定NPO法人  
CLACK理事長

平井大輝

NPO法人ETIC  
事務局長 コーディネーター

鈴木敦子

認定NPO法人  
CLACK社員

前田勝紀

NPO法人ETIC. シニアコーディネーターの鈴木敦子さん。「アントレプレナー」を増やすことを目的としているETIC. に創業期より参画され、事務局長兼コーディネーターとして、多くの起業家や団体を支援されてきました。

たくさんの起業家やNPO団体を見てきた鈴木さんから見た、CLACKの特徴とは？

また、テクノロジーが急速に発展する昨今、NPOの現場はどうなっていくのか？

鈴木さんと理事長平井、そしてCLACKメンバーでITエンジニアの経歴を持つ前田の3人からお話を聞きました。

### 起業家支援× 学生起業家の出会い

初めに、鈴木さんと平井の出会いはどこだったんでしょうか？

鈴木 NPO法人ETIC. が運営している、学生起業家を応援するプログラム「MAKERS UNIVERSITY」に学生時代の平井さんが参加していたのがきっかけでした。私は当時審査員で、面談で初めて平井さんと話したんですが、その時は正直「難しい挑戦をしているな」と。IT×支援という枠組みは他の団体でも見たことはありましたが、同時にそれで生計を立てたり継続していくのはすごく難しいと聞いていたので。

平井 MAKERS UNIVERSITYは、先輩起業家に相談に乗ってもらったり、同世代の起業家と一緒に頑張ることができる場所でした。当時の鈴木さんは「応援団」という立場で、毎年コメントをもらっていましたね。

鈴木 当時から私はテクノロジー分野に興味があったし好きだったので、頑張りたいなって思っていました。まさかここまでハイペースに成長するとは思っていませんでした(笑)

### TechRunway 参加者の親として

鈴木さんはご自身のお子さんにTechRunwayを紹介してくださいました。当時のことを教えてください。

鈴木 息子は発達障害の特性があり、読み書きに少し難しさを感じていました。それをサポートするツールになればと思いPCを買ったらプログラミングに興味を持つようになりました。楽しいと思うものを探求してほしいと思っていたので、プログラミングの塾などにも連れて行っただんですが、中々あうところがなく、民間の場所だと「もっとすごい子」がいっぱい居るんです。初日の時点で他の子と比較してしまっって、自信をなくしてしまっていました。あと、場に慣れるのに時間がかかるので、フレンドリーさを求められる場だと難しかったこともあり。そんな時に平井さんとTechRunway(以下、TR)のことを思い出して、連絡をしました。

前田 当時、僕がTRの担当をしていたのでよく覚えてます。3ヶ月間のTRに参加して、本当にいい意味で変化してくれました。TRに参加する高校生は「将来の展望はまだない」という子も多いですが、息子さんははっきり「お金持ちになりたい」と言っていました。その意思表示できることもいいと思う。プログラミングを学びながら、キャリア教育でエンジニアや起業家の話を聞いたりしてみよう、と伝えました。

平井 TRではキャリア教育も重視していて、企業見学には絶対行った方がいいと思っています。TRに参加する高校生は何らかの逆境を抱えている子が多く、人よりもピンチが多くてチャンスが少ない。プログラミング学習もチャンスの一つだし、企業見学もそうです。それをチャンスと認識して掘んで欲しいし、時間を投資して欲しい。そういったチャンスを提供していきたいと思っています。

鈴木 これまで続かなかった「どこかに通う」という行動が、TRは続きました。どこかよかったの？と本人にも聞いてみましたが「居心地がいいから」と。周りと話してもいいけど話さなくてもいいという自由度があるということがよかったです。

平井 それは最初からTR設計に入れたポイントです。好きなように参加してねという雰囲気づくりを重視してきました。騒ぐ子もいるし、他人に無関心な子もいる。それでも誰でもウエルカムだし、皆が共存しているのが理想です。

鈴木 自分の作った作品の発表会があったときに、皆から褒めてもらったのがとても嬉しそうでした。自分が主体的に作りたいと思ったものを完成させてフィードバックをもらうという経験が初めてだったので、それが息子にとってプレイバック体験になったと感じています。

前田 TRでは「これを作る」「ここまでできるようにする」という絶対的目標をつくりません。ゴールは自分で設定できるし自由度が高いので、本人もある意味無料で教えてもらうだけのお客さんとして来ているわけではなく、自己表現ができる場だと思えます。もちろん息子さんが自力でチャレンジして、作品を完成させたからこそ成果です。頑張ってくれて僕も嬉しいです。

### NPO×デジタルの可能性

CLACKは「子ども支援×デジタル」という特徴があります。この先、NPO業界におけるデジタルやテクノロジーの活用で可能性を感じることはありますか？

平井 生成AIの急速な発展により社会の変化のスピードが早くなり、10年単位で必要なスキルや仕事が変わってくると予想しています。個人のリスクリングも必要と言われ始めていますが、変化のスピードに取り残されてしまう人もいます。そういう人に対してなができるかを見極めていくのが、CLACKができることだと思っています。

鈴木 テクノロジーは、社会課題の解決にとっても可能性があると思っています。社会課題解決を考える人はたくさんいるけど、テクノロジーの活用を発想を向ける人はあまりいない。レバレッジが効くツールであることは間違いないのに、もったいないです。今社会を動かしているような年齢層はまだデジタルネイティブ世代ではないので、いくら投資するのか、どれくらい資金があるのか、どう運用するのか、知らないことが多いのかもしれない。

コロナがきっかけで現場でのテクノロジー活用は増えましたが、進んでない場面も多いです。例えばセンサーやボイスレコーダーを使用した「虐待検知」などは支援現場には必要ですが、プライバシー保護の面で進まない。

でも「どうしたら運用できるか」という議論をしていかなければ変化は起きないと感じています。「テクノロジーをどう使うか」ではなく、「テクノロジーを使って社会にどう変化を起こすか」の視点で考えることが大切ではないでしょうか。

平井 生成AIを活用できれば、構想を入力するだけでプログラムができる時代が近づいてきています。昔だったらHP作成は難しい仕事でしたが、今なら生成AIと少しのプログラミング知識で作成できます。その「構想の仕方」を教える、とかができたら面白いかなと思っています。最近CLACKメンバーの中でも、生成AI研究部を立ち上げました。

前田 CLACKは活動の特徴から団体の内部にIT人材が多いですが、NPOひとつに1人プログラマーが必要かと言われると決してそうでもない。一度業務をIT化したら、その後の運用は効率化されて楽になる、というのは往々にして言われていることです。3つの団体に1人のIT人材が居るとか、そういう仕組みがあったらいいですね。

鈴木 CLACKでデジタルを学んだ子どもたちが、NPOや中小企業が手の届かないところを手伝えるような仕組みができれば素敵だと思います。



# 2023年度活動計算書

科目	特定非営利に係る事業	その他の事業	合計
<b>I. 経常収益</b>			
1. 受取会費	0		
2. 受取寄附金	54,080,345		
3. 受取助成金	36,844,000		
4. 事業収益	19,283,934	1,956,103	
5. その他収益			
受取利息	334		
雑収入	210,935		
経常収益計	110,419,548	1,956,103	112,375,651
<b>II. 経常費用</b>			
1. 事業費			
(1) 人件費			
役員報酬・給料手当	21,848,685	4,694,000	26,542,685
法定福利費	3,088,947	694,742	3,783,689
人件費計	24,937,632	5,388,742	30,326,374
(2) その他経費			
旅費交通費	5,806,352	1,540	5,807,892
外注費	12,932,861	754,000	13,686,861
インターン活動支援費	7,777,850		7,777,850
採用教育費	2,706,977		2,706,977
広告宣伝費	1,942,970	5,000	1,947,970
通信費	503,566	10,560	514,126
ソフトウェア管理費	351,000	30,471	381,471
消耗品費	4,016,866		4,016,866
給食費	217,062		217,062
教材費	2,178,175		2,178,175
PCリソース費	2,045,560		2,045,560
賃借料	417,973		417,973
地代家賃	2,793,976		2,793,976
支払手数料	692,775		692,775
減価償却費	1,621,529		1,621,529
その他経費計	46,005,312	801,571	46,806,883
事業費計	70,942,944	6,190,313	77,133,257
2. 管理費			
(1) 人件費			
役員報酬・給料手当	4,152,000		4,152,000
法定福利費	445,524		445,524
福利厚生費	74,774		74,774
人件費計	4,672,298		4,672,298
(2) その他経費			
旅費交通費	1,467,490		1,467,490
採用教育費	891,819		891,819
交際費	26,973		26,973
通信費	118,104		118,104
消耗品費	103,977		103,977
教材費	30,000		30,000
賃借料	19,949		19,949
地代家賃	1,256,432		1,256,432
租税公課	980,690		980,690
保険料	69,640		69,640
諸会費	875,300		875,300
支払手数料	1,027,096		1,027,096
支払報酬料	1,375,000		1,375,000
支払利息	62,272		62,272
その他経費計	8,304,742		8,304,742
管理費計	12,977,040		12,977,040
経常費用計	83,919,984	6,190,313	90,110,297
当期経常増減額	26,499,564	△4,234,210	22,265,354
<b>III. 経常外収益</b>			
経常外収益計	0		0
<b>IV. 経常外費用</b>			
経常外費用計	0		0
経理区分振替額	△4,234,210	4,234,210	0
税引前当期正味財産増減額	26,499,564		22,265,354
法人税、住民税及び事業税	105,000		105,000
当期正味財産増減額	22,160,354		22,160,354
前期繰越正味財産			5,575,932
次期繰越正味財産			27,736,286

今年度より立ち上げた高校生のWeb制作事業「クエスト」は定款に定める請負業に当たるためその他の事業として、計上しています。

**受取寄附金**  
企業様からの寄付金が8割、個人の方からの寄付金が2割となりました。今年度もIT企業を中心に、多くの企業様にご支援をいただくことができました。

**受取助成金**  
よどがわベース立ち上げにご支援をいただいた日本財団様をはじめ、計9団体にご支援いただきました。

**事業収益**  
愛媛県西条市のTech Runwayを受託業務として実施したことや、みんなのコード様のCCHマニュアル作成委託業務が含まれています。

**雑収入**  
京信・地域の起業家アワードの賞金が含まれています。

**役員報酬・給料手当**  
事業拡大により、今年度も職員の新規雇用を進めているため、人件費は昨年比1.5倍となりました。

**旅費交通費**  
Tech Runwayの生徒交通費、対面支援のスタッフ交通費を計上しています。よどがわベース開設、Tech Runway愛媛の実施により、昨年より150万円増加しています。

**外注費**  
今年度も事業運営に当たり、ITエンジニアを始めとした兼業人材に、業務委託契約で活躍いただいています。

**インターン活動支援費**  
大阪、堺、東京、愛媛の4教室のTech Runway 大学生インターンの活動支援金です。

**採用教育費**  
事業拡大に伴う社員、インターン採用に関わる費用です。

**広告宣伝費**  
チリツモ事業の生徒募集費用やマンスリー寄付会員獲得のための費用が含まれています。

**消耗品費**  
よどがわベース開設に伴う備品購入のため、昨年度より大幅に増加しています。

**給食費**  
よどがわベースや東淀工業高校での居場所カフェで提供した食品の費用です。

**採用教育費**  
社員合宿、外部研修参加費用です。より多くの中高生に質の高い支援を届けるために、今年度も社員のスキル向上を図りました。

**税引前当期正味財産増減額**  
よどがわベース開設に伴い、機材や什器を購入したため、昨年度と比較して増加しています。

## 子どもがワクワクできる社会をともにつくる

### CLACKへのご支援について

CLACKの活動は、ご寄付やご寄贈をはじめとする、みなさまの様々なご支援に支えられています。私たちと共に、子どもたちが生まれ育った環境に関係なく希望を持ち、ワクワクできる社会を創っていきませんか？

#### 個人の皆さまへ

##### ▶ 継続サポーター

毎月定額の寄付で応援する

月1,000円からの継続的なご支援となります。

##### ▶ 単発サポーター

お好きな金額の寄付で応援する

ご自由な金額・回数でご支援いただけます。

ご寄付はこちら



※CLACKでは、コングラント株式会社が提供する寄付管理サービス「コングラント」を使用しております。決済方法は、クレジットカード、銀行振込からお選びいただけます。詳しくは上記QRコードよりご覧ください。

※認定NPO法人の資格を取得しているCLACKへの寄付は、税控除の対象となります。地方税も寄附金控除の対象となりますが、控除割合は各自治体によって異なります。詳細については、各自治体にお問い合わせください。



<個人寄付者の声> nayer 株式会社 中山 陽介様

子どもの成長と持続可能な未来の事を真剣に考え、現場で向き合い、さらに次々に社会的なインパクトを拡げる事業をつくり出す平井さんとCLACKのメンバーの話を直接聞いて、何とか自分でも力になれないかと思い、活動の応援を決めました。私とCLACKの関係はプロボノがきっかけで始まりましたが、今後もより希望とワクワクのある社会に変えていくこと、その輪を広げることの支援を続けていければと思っています。

#### 法人の皆さまへ

##### ▶ 使用済みPCの寄贈によるご支援

CLACKでは、困難を抱える高校生にプログラミング教育とともに企業の使用済みPCを届けるプロジェクト「Pass the Baton (パスザバトン)」を実施しています。

ご寄贈いただいたパソコンは、パートナーシップを締結している株式会社バシフィックネット様の元で、データ消去を実施したのち、経済的事情でパソコンの購入が難しく、プログラミングの継続学習を希望する子どもたちに無料で提供します。



株式会社バシフィックネット 代表取締役社長 上田 雄太 様

<法人サポーターの声>

2023年度は、「Pass the Baton」プロジェクトの寄贈PCが早くも1000台を突破し、2021年から始まった応援の輪が大きく広がったことに感謝の気持ちでいっぱいです。4月にはCLACKさんの設立5周年イベントに参加させていただき、当日駆けつけた大勢の方々を目の当たりにし、CLACKさんの活動に対する社会の大きな期待を強く実感しました。パートナー企業として、次年度もより多くの高校生が将来の選択肢を広げられるよう、プロジェクト推進に尽力させていただきます。

##### Pass the Baton



企業から譲り受けた使用済みPCを、完全無料のプログラミング教育とともに困難な状況にある高校生に届けることで、“自走力”の向上を支援するプロジェクト「Pass the Baton」。これまでに多くの企業様にご支援いただきました。企業からのPCのご寄贈に関しましては、特設ページをご覧ください。

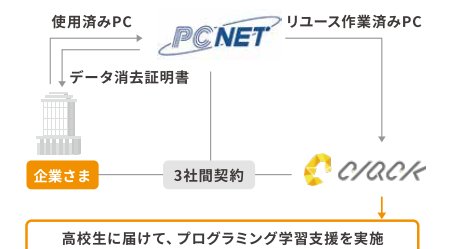


##### ▶ ご寄付によるご支援

CLACKへのご寄付は、損金算入が可能です。詳しくは内閣府ホームページをご覧ください。

CLACK 寄付 検索

##### <Pass the Batonの仕組み>



# OUR PARTNER

## パートナー企業のみなさま

日頃よりご支援をいただいているみなさまに厚く御礼申し上げます。子どもたちへ完全無料でプログラミング学習支援・キャリア教育を届けるにあたって、個人の寄付者様に加えて、企業の皆さまにもご支援をいただいております。一部となりますがご紹介させていただきます。今後も皆さまとともに、高校生にプログラミングの力で未来への希望とワクワクを届けていきたいと思っております。



### < 賛同者の声 >



株式会社村田製作所  
セラミックコンデンサ事業本部  
生産統括部事業改革推進部マテリアルビジネス課  
安田 圭佑 様

CLACKさんを初めて知ったのは2022年。社会課題解決に関するイベント (Beyond Conference) に参加していたところ、お声掛けをいただきました。

当時、村田製作所が社会課題を解決する新規事業創出のη (イータ) プロジェクトを開始したところで、プロジェクトのサポーターとして参画し、「どんな社会課題に関する取り組みがあるのだろう」と日本各地を飛び回っていました。

村田製作所は電子部品の製造販売を手掛けており、数多くの部品がスマートフォンやパソコンに採用されているため、廃棄予定のパソコンを「困難を抱える中高生に届ける」ことで、部品がさらに活躍し続けられることに魅力を感じました。

村田製作所は社会の課題に関心を持ち、ムラタの特色を活かした貢献活動を行っており、CLACKさんの取り組みはこの考え方に沿った取り組みでした。母子家庭で育ち、中古のパソコンを近くの家から譲り受け、タイピングを学べるようになった高校3年の当時の自分と重なったことも動機のひとつです。

上司に伝えてみたところ「Good job! ムラタの社会貢献活動として素晴らしい」と背中を押してもらい、新しい取り組みではあるものの、関係部署に協力と共感をしてもらい、今回の寄付につながりました。

村田製作所は「そこにムラタがあることが、その地域の喜びであり、誇りである企業。ムラタで働くことが、従業員の喜びであり、誇りである企業」という創業者の理念のもと、持続可能な社会の実現、地域社会の発展という共通の目標に向けて、今後とも社会・地域貢献活動に取り組んでまいります。



# ORGANIZATION

## 団体情報

### メディア掲載 (2023年度)

- 2023年4月13日 日本経済新聞
- 2023年6月30日 読売新聞
- 2023年7月30日 J-WAVE ARROWS
- 2023年8月23日 ミライのお仕事
- 2023年8月24日 FORBES JAPAN 30 UNDER 30 2023
- 2023年9月7日 朝日新聞
- 2023年10月14日 Ridilover Journal
- 2023年10月24日 朝日放送「newsおかえり」
- 2023年11月22日 日本経済新聞
- 2023年12月2日 読売新聞
- 2024年1月10日 CO・OPステーション
- 2024年1月25日 読売新聞
- 2024年1月25日 Forbes JAPAN リーダー「100人」会議
- 2024年3月16日 BS朝日「Fresh Faces」
- 2024年3月17日 TV朝日/BS朝日「未来につなぐエール」

### 受賞歴

- 2022年 2021年度 シチズン・オブ・ザ・イヤー
- 2023年 第16回「未来を強くする子育てプロジェクト」スミセイ未来賞
- 2023年 第2回 SDGsジャパンスカラシップ岩佐賞【教育の部】
- 2023年 2023年度 イノベシスト大賞
- 2023年 FORBES JAPAN 30 UNDER 30 2023 日本発 世界を変える30歳未満
- 2024年 第11回 京信・地域の起業家アワード 優秀賞



お問い合わせ

✉ [contact@clack.ne.jp](mailto:contact@clack.ne.jp)

WEBサイト



note



大阪事務所  
〒532-0023  
大阪府大阪市淀川区十三東4丁目1-5  
よどがわベース2階

東京事務所  
〒150-6027  
東京都渋谷区恵比寿4-20-3  
恵比寿ガーデンプレイスタワー27F COEBI

理事長 平井大輝  
理事 白井智子 / 中川公貴  
監事 松川奈央  
顧問弁護士 三村雅一  
顧問税理士 鳥野税理士事務所  
デザイン syusyu design (Webサイト制作ほか)